

## 地熱発電所における地域との共生のための取組事例

25.1.28

福島県エネルギー課

1 県内の発電所の例（柳津西山地熱発電所）

(1) 事業報告を定期的を実施。

- ・ 町主催の地区説明会 （年に1回程度）  
→ 柳津町、東北電力(株)、奥会津地熱(株)が立地地区に対し、  
事業実施状況、事業計画等を説明。

(2) 環境モニタリングと結果報告を定期的を実施。

- ・ 環境保全協定に基づく各種環境調査（大気質・悪臭、騒音・振動等）  
の実施。
- ・ 柳津町に対する結果報告（年に1回程度）

(3) 温泉モニタリングと結果報告を定期的を実施。

- ・ 温度や湧出量の調査 （2週間に1回程度）
- ・ 源泉成分の調査 （年に2回程度）
- ・ 結果報告 （年に1回程度）  
→ 温泉組合、柳津町、奥会津地熱(株)が参集し、  
現況確認や各源泉の湯量・温度変化・改善方法等について意見交換

(4) 周辺温泉に対し、技術的な支援を実施。

- ・ 源泉のスケール除去やトラブル発生時の対応

(5) 地元行事への協賛・参加

(6) 工事関係者の地元飲食店、宿泊施設の活用を推進。

## 2 その他の発電所の例

事業者	内容
A	町主催の連絡協議会に参加し、温泉事業者と情報交換。
	還元熱水を利用した町（トマトなどの栽培用ハウス）への温水供給（無償）。
B	定期点検修繕工事作業員の地元温泉宿泊施設の活用。
	温泉組合主催の各種行事への参加。 発電所PR館来訪者への温泉宿の紹介（パンフレット、地図の配付）。
C	毎時260トン、70℃の温泉供給（有償）。
D	協定に基づく、温泉モニタリングや発電所操業状況についての定期的な報告。
	造成熱水の供給、観測井による給湯。
	地元温泉事業者の温泉井スケール付着対策等の技術支援。 学識経験者を含む第三者機関（委員会）による温泉モニタリング結果の評価。
E	源泉所有者説明会を定期的を実施し、発電所の運転状況等について意見交換。
	泉温・湧出量等の定期的な温泉モニタリングの継続と報告。
F	地元温泉組合への技術支援。
G	温泉の湯量確保のための技術支援（温泉井の掘削位置の選定等）。
	発電に使用した蒸気凝縮水を熱交換に利用し、温水を温室に供給。
H	周辺地区の町有泉源確保のため、地表調査やスケール対策等の技術協力。
	発電設備および蒸気供給設備の設置地区に対し、民生利用に限定した給湯。
I	熱水有効利用装置等を利用した給湯。
	定期的に委員会を実施し、水質測定の結果等について報告。

※ この資料は、奥会津地熱(株)への聞き取り、経済産業省資源エネルギー庁「第2回地熱発電に関する研究会（21.1.30）」配布資料を参考に県が作成